

(1) 単元名：式と計算の順序

(2) 本時の目標： 結合法則を利用して 25×36 などの計算を簡便に処理すること、() を用いて与えられた条件に基づいて3項以上の統合式で表現することができるようにする。

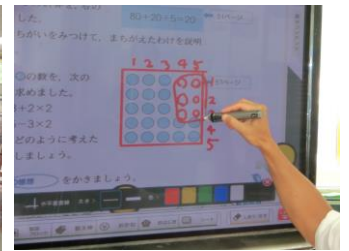
国頭村立奥小学校。S先生、H25年度の国頭村新任。職員のへき地研修会においても授業公開をお願いした。へき地教育2年目の教師であるが、初年度の去年に比べ教師のテンションがかなり低くなっている。子どもに個性があるように教師にも様々な個性がある。「学び」の理念とのジレンマの中で教師の静かな挑戦が追求される。本日は国頭教育事務所の主事招聘授業でもある。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

0:00 【授業開始】淡々と静かに始まる。

電子黒板で教科書の課題を解く、教師との対話で授業が進められる。二人ともよく語っているが、「学び」にはまだつながらない。教師と各々の対話のみである。男の子の新さんは実によく語っている。



みのりさんとの声の量で比べると8:2ぐらいの割合で新さんがしゃべっている。みのりさんの言葉の少ないのは、教師の位置にも少し影響があるのではないだろうか。どちらかというともりのさんを教師の近くの座席にし、教師からみのりさんに単発な発問を投げかけて「語らせる機会」をつくってあげた方がよいのではないだろうか？しかし驚きは教師の子どもへの関わり方が以前と比べて数段に柔らかくなっていることである。トーンを落とし、音量を下げ、言葉を少なくしていこうという教師の意識が明確に本時の授業に出ている。教師がこれまでの自分を超越して、何かに努力していく姿は子どもと同じように美しい。素晴らしいここ国頭村でおおいに挑戦してほしい。

9:00 プリントの配布



プリントが配布された二人とも食い入るようにプリントに向き合う。問の文がない！なのに不思議、新さんは「分った」とか「簡単」とか一人でぶつぶつしゃべっている。一体何が簡単で何が分かったんだろう。ぜひゆっくりと語らせたかった場面である。

11:00

2枚目のプリントが配布される。今度は問題文だ。黒板にも掲示し二人で問題文を音読して解答に取りかかる。新さんはまたもぶつぶつ何かをしゃべっている。…何かある。彼のこの仕草には、必ず何らかの心が隠れている。



みのりさんは実に冷静に読み入っている。

16:40

写真①、新さん黒板掲示を使って解答を記す。みのりさんは黙々と問題に向かう。写真②、みのりさんは新さんに比べ時間はかかったが何とか自力でやりきった。教師が○をつける。隣の新さんの表情や仕草が気になる。・・・「関係をつくってあげる」教師の役割です。

18:17 2問目の課題がわたされる。

全国学テの問題である。各々取り組むが対話が出てこない。教師はぶつぶつぶやく新さんと対話を進める。言葉を発しないみのりさんが気になる。完全に自分だけでやるつもりでいるのだろうか？

日常はどうかなんだろうか仲間との関係はどうなっているんだろうか？関係づくりが要！



21:00 教師が動く・・・みのりさんに困り感を感じたのか教師が二人の間に入る。しかしつながらない。新さんも自分でやりきることから妥協しない。しばらく沈黙の時間が続く・・・確かに投げ出してはいないが、「対話」と「協同」の意識がほしい。この子たちを縛り付けている「自分でやらなければいけない」というプライドは何だろう。「互いに分かり合うことの喜び」学びの快樂に向けさせたい。



写真③



「対話がないから自分の間違いにも気づきようがない状況になる。」

授業全般においてなかなか二人が互いに関わろうとせず、「学び合い」が発生しない。教師も二人に対して、それぞれへの関わりだけで対話している。互いが「つながらない」状況が続く、子ども達の疑問やつぶやきがほとんど教師に向けられている、教師もそれに答える。ちがう！教師はもっと意図的な「つなぐ」行為を押し進めなければならない。「訊き合う」は自然体になるまでは指導的な指示で導いてもよい。二人をつなぐためにまず、上記の写真③の**教具を二人の間から取り払い、物理的な距離を縮め、互いがいつでもプリントやワークシートをすり合わせる**ことができる環境をつくってあげることが大切です。

授業後半わずかな時間ではあったが、二人が向き合い「学び合う」シーンがあった。それも2回とも新さんから、みのりさんの解答へ向けられた「間違い」の「指摘」のような雰囲気でも語られた。指摘する側、聞かされる側の立場になっていた。



35:20～ 跳び箱の問題。教師とみのりさんの対話の中に新さんが入ってきて、「つかえないよ!」「だってこれだったら、跳び箱の上が穴が開いてしまいとべないよ。」

▲ 本日最大の「学び合い」のチャンスだった。

40:20～ 教師がみのりの解答を新につないだ。
新:「ちょっと訊きたいことある」・・・
みのり:「じゃあ 引けばいいさ」
新:「そしたら」・・・

それぞれの対話が1分以内の対話ではあるが本日の貴重な「学び合う」瞬間のように思えた。ぜひDVDで教師と二人のやり取りを確認し、二人の言葉や表情から「関係」を見つめてほしい。とってもいい授業研究の材料です。教師は簡単に妥協せず、二人の関係の改善に役立ててほしい。

【 2枚の写真: 相手を気にかけている瞬間 】「つなぐ」チャンス
奥の新さんがみのりさん様子を気にかけて視線を送っている。「気になる」は関心を示しているときです。ここがチャンス!



【 1枚の写真 】俺は終わった。
教師がやっている行為そのものを新さんにあずけたいシーンである。



城間先生ありがとうございました。またお疲れ様でした。今年度、今学期2回目の授業研究でした。先生の授業への姿勢が、だいぶ去年と変わってきたことを実感しています。リフレクションシートの詳細についてはぜひ、DVDでもう一度確かめてみてください。必ず何らかの教師の発見があると思います。

【千葉主事より】

- ・家庭学習の質と授業の連動について、授業を深めたり、学習意欲を高める宿題の提供を心がけよう。
- ・「評価規準」と「評価基準」について、「規準」は評価Bレベルの設定で行うようにする。
- ・授業の中で実際の全国学テの問題を扱うことについて、1つを丁寧に扱うのもよいのでは。
- ・「図」と「式」を言葉や文字で説明するについて、数学的言語活動として大切である・・・ その他

ちょっと手厳しいシートになってしまいましたが、すみません!(期待への表れだにご理解ください。)

国頭学びの会ゆい